

## 平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

|   |  |                                |      |
|---|--|--------------------------------|------|
| 機 関 名   | 北海道大学  | 整理番号                           | a002 |
| 1. 申請分野(系)  | 人社系  |                                |      |
| 2. 教育プログラムの名称   | 学生主導型の研究マネジメント力養成  |                                |      |
| 3. 関連研究分野(分科)<br><br>(細目・キーワード)   | 主なものを左から順番に記入(3つ以内)<br>法学・政治学                                  |                                |      |
|   | 主なものを左から順番に記入(5つ以内)<br>(基礎法学、実定法学、新領域法学、政治学、国際関係論)             |                                |      |
| 4. 研究科・専攻名<br>及び研究科長名<br><small>([ ]書きで課程区分を記入、<br/>複数の専攻で申請する場合は、<br/>全ての研究科・専攻を記入)</small>  | (主たる研究科・専攻名)<br>法学研究科・法学政治学専攻〔博士前期課程〕<br>法学研究科・法学政治学専攻〔博士後期課程〕 | <b>研究科長(取組代表者)の氏名</b><br>岡田 信弘 |      |
|   | (その他関連する研究科・専攻名)   |                                |      |
| <p><b>5. 本事業の全体像</b></p> <p>5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)</p> <p>北海道大学には、基幹総合大学としての多面的な社会貢献とともに、大学院重点化大学としての高度な学術的貢献と人材養成とが期待されている。そこで、本学は、従来の大学院を、①全地球的課題への機動的な対応、②産業活性化への視点の強化、③新たな学問領域の開拓、を可能にする大学院に再編し、世界に発信できる新教育研究拠点へと発展させるべく、検討を重ねてきた。</p> <p>本事業は、主に①と③に関する。全地球的課題に機動的に対応し、新たな学問領域の開拓を担う優れた若手研究者には、大学院教育の実質化によって得られる《複眼的専門知》を備えた研究遂行能力と、本事業の実施によって培われる《研究マネジメント力》の両方が必要である。</p> <p>なお、本学では、中期目標・中期計画に基づき、総長主導體制の下で、①教員定員の有効活用と人的資源の流動化、②若手研究者の育成と大学院研究教育体制の強化、③研究成果の産業界、社会への発信、活用体制の整備、④国際交流の促進、⑤長期的研究資金と研究支援要員の確保等に取り組んできた。本事業も、こうした重点的取組みの一環として、全学的な支援のもとで実施される。</p> |  |                                |      |

| 機 関 名  | 北海道大学 | 整理番号 | a002 |
|--|-------|------|------|
| <p><b>5-(2) これまでの教育研究活動の状況</b> (現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本研究科における、これまでの大学院教育全般にかかわる改革の概要は、以下の通りである。</p> <p>平成4年：修士課程専修コースの設置。従来の法学・政治学の研究者養成に加えて、専門的知識を備えた職業人養成にも踏み出す。</p> <p>平成16年：法律実務専攻(法科大学院)の開設。上記専修コースを総合法政コースとして改組。研究者養成とともに、専門職大学院としての法科大学院設置による法曹養成を開始し、高度職業人の育成にいっそうの力を注ぐようになった。</p> <p>平成17年：公共政策大学院の開設。工学・経済学研究科との連携のもとに設置した文理融合型の専門職大学院である。それとともに、法学政治学専攻(研究大学院)を再編成して、従前からの法学・政治学の研究者養成と専門的知識人の養成とを統合した。</p>  |       |      |      |
| <p><b>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画</b> (大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本研究科は、平成17年の法学政治学専攻(研究大学院)の再編成によって、大学院教育の実質化を目指した改革に着手した。その基本理念は、次の4つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 《複眼的専門知》を備えた視野の広い研究者養成。そのために、徹底した少人数教育を展開するとともに、複式履修制度や複式指導などの制度的工夫をこらしている。</li> <li>2. 体系的コースワークの設定。具体的には、ステップ履修ガイドラインを作成し、双方向的科目セッティングを可能にしている。</li> <li>3. 研究基礎力の養成。外国語・クラシックス科目、応用外国語教育を通じて、古典的素養の素養とともに研究のための高度な実践的語学力向上を追求する。</li> <li>4. 修士論文・博士論文完成に向けての系統的な指導。修士論文中間構想報告制度や、博士論文事前審査制度を採り入れた。</li> </ol> <p>本教育プログラムは、このような大学院教育の実質化による研究能力養成と並行し、それと車の両輪をなす形で、「研究マネジメント力」の養成を目的とする。「研究マネジメント力」とは、研究者個々の実践的な研究推進能力、すなわち研究テーマの設定から学位論文の完成にいたる研究過程を主体的に設計・組織化し、自律的に管理し、段階的に実施してゆく能力を意味する。</p> <p>本プログラムの基本理念は、「学生主導型」である。具体的には、米国の法科大学院で広く展開されてきた学生によるロー・レビュー編集会議を参考に、各年度ごとに本研究科の学生から優秀者を競争的に選抜き、自立的学生組織たる「研究推進ボード」を編成して、以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生の間から研究プロジェクト案を公募・選考し、採択案ごとに小委員会を設けて推進する。</li> <li>②学生のイニシアティブによる研究会、ワークショップ等を計画・組織・実施する。</li> <li>③学内外や国外から先端的な研究者を招聘したシンポジウムを開催する。</li> <li>④②③の成果をまとめて論文集を編集し、刊行する。</li> </ol> <p>特に④は、学生の自立的な研究能力涵養のための活動を締めくくるものであり、テーマの設定、論文の公募、応募論文の査読、採否の決定等、編集作業の全てを研究推進ボードが担当する。</p> <p>これらの活動全般について、研究科教授会により選任された教員および外部専門家から構成される「支援ボード」が指導助言する。このボードは、学生の活動の単位認定についても責任を負う。</p> |       |      |      |

6. 履修プロセスの概念図

# 学生主導型の研究マネジメント力養成

国際的・学際的な《複眼的専門知》をもつ  
法学・政治学の若手研究者、より高度な  
専門職の養成

研究過程の自主的・自発的な  
管理、運営の能力の改善

社会人コース

## 博士課程

研究者養成コース

- ◆ 少人数教育と《複眼的専門知》の深化
- ◆ 錬成的コースワーク
- ◆ 論文事前審査制度

## 修士課程

- ◆ 研究者養成と専修的教育の統合
- ◆ 複式指導方式
- ◆ 履修科目群選択制
- ◆ 少人数教育と《複眼的専門知》の修得

世界水準  
の自立的  
研究者

- ① 研究プロジェクトの公募と選抜
- ② 講演会・ワークショップの企画・運営
- ③ 内外の研究者の招聘とシンポジウム開催
- ④ 研究成果としての論文集の編集・刊行

### 研究推進 ボード

優秀者を  
競争的に  
選抜

単位制に  
よる評価

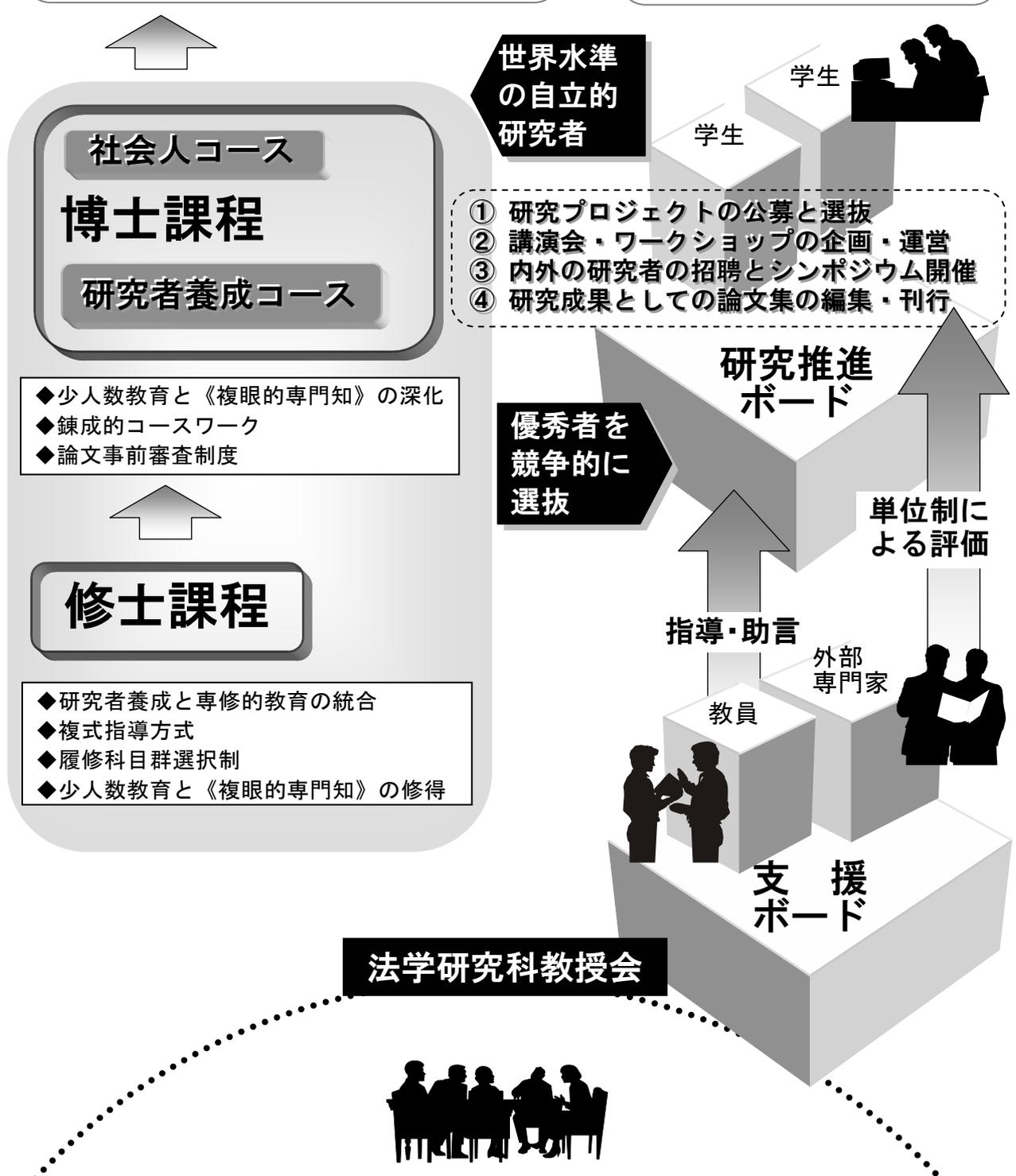
指導・助言

外部  
専門家

教員

### 支 援 ボ ー ド

### 法学研究科教授会



| 機 関 名   | 北海道大学 | 整理番号 | a002 |
|---|-------|------|------|
| <p data-bbox="165 199 588 232">&lt; 審査結果の概要及び採択理由 &gt;</p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 918 633 949">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 965 1428 1283" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 965 1428 1097">・研究大学院の再編に当たって、「学生主導型の研究マネジメント力の涵養」という目的を掲げ、院生に水準の高い論文を執筆させ、課程博士を増加するとの狙いは適切である。とくに研究主導型研究推進ボードの構想は、自立的な研究者養成に資する斬新で意欲的な計画として評価できる。</li> <li data-bbox="172 1113 1428 1283">・組織的な取組としてのFD（教育内容・方法等の組織的な研究・研修）や授業評価を含め、法学政治学専攻の再編成に基づく本プログラムは、現段階では、法科大学院の活動に依拠する面が強く、その実現可能性についてはなお未知の点が多い。計画倒れに陥らぬよう実施に向けての創意工夫を怠らぬよう望みたい。</li> </ul> |       |      |      |